

和訓栞の研究について

研究部会 塚澤 洋

谷川士清は国学者として多くの業績を残しましたが、その代表的なものは我が国最初の50音順に配列した国語辞典『和訓栞』の編集です。

谷川士清研究の大きな障害になっていることに資料の不足があります。ある程度の資料は発見されていますが、多くは断片的なものであり、彼の生い立ちを始めとする生涯も不明の所が多いのが現状です。津市文化課で「どこにどんな谷川士清の資料があるか」の調査も行われたようですが、個々の資料の内容の研究は<津市の大合併>による事務の増大もあり、「これから」ということのようにです。

『和訓栞』等の研究は、古文書解読力・国語学等高度な専門知識が必要で、これらの知識を持つ大学等の研究機関が先頭に立って研究を実施してもらうことが必要です。それによって谷川士清の業績が学問的に証明され、その結果を新聞等で一般人にも分かるように「士清はこのような点で優れていた」と報道してもらえれば、一般市民ももっと谷川士清に関心を持つようになると思います。しかしこれも、大学の先生の研究対象となる資料が発見されることが前提となります。もちろん、「これらの専門家の研究が開始されるのをただ待っている」という消極的な姿勢だけでは何の進展もなく、私たち一般人もそれなりに研究の努力をすることは大切です。

いままでは「現在大学の先生が谷川士清の研究をしている」ということを聞いたことがなかったのですが、最近二人の大学教授が谷川士清『和訓栞』の研究中であることが分かりました。千葉県のと洋女子大学の三澤教授と、東京都の國學院大学の遠藤教授です。

その研究資料としては、①版本『和訓栞』 ②『和訓栞』自筆稿本(谷川士清筆) ③『和訓栞』写本(谷川*清逸写)[*清逸=士清曾孫]があります。特に③『和訓栞』写本(谷川清逸写)は、谷川士清が作成し川北景楨・谷川士逸(士清子息)が加筆した和訓栞稿本が古くなって虫喰い状態となっていたのを、士清曾孫の清逸が天保10年(1839)に書き写した新出資料です。

和洋女子大学の三澤教授は、津中央公民館で2月18日から毎日曜日に4回連続で開講される*「谷川士清顕彰講座」の第3回目[3/4(日)]に講演されるので、その際先生のご研究の一部が発表されることも考えられます。今年は、谷川士清研究がさらに発展していくことを願っています。(19年2月記)

(編者注)当日は③の清逸写『和訓栞』(石水博物館蔵)中心にその価値が話されました。

中央公民館

* 谷川士清顕彰講座について(生誕300年プレ事業—津市教育委員会文化課主催。)

「広報津」平成18年第23号12-1で募集、定員40名。無料。津中央公民館の講座として募集。(抽選)

第1回2月18日「谷川士清の生涯」(谷川士清についての概説) 講師 皇學館大学教授 高倉一紀さん

第2回2月25日「士清の学問1『日本書紀通證』の内容と学問的意義」講師 皇學館大学教授 渡邊 寛さん

第3回3月4日「士清の学問2『和訓栞』の内容と学問的意義」講師 和洋女子大学教授 三澤薫生さん

第4回3月11日「谷川士清と本居宣長」(士清と宣長の学問と交流) 講師 本居宣長記念館 吉田悦之さん

以上は津中央公民館2階会議室にて。会員希望者は脇の椅子席で傍聴参加。

第5回3月18日「谷川士清史跡巡り」(谷川士清旧宅、反古塚、谷川士清墓等現地見学) ボランティアガイド

(谷川士清の会会員による案内)

第1回士清顕彰講座に出席して

佐野萬里子

谷川士清の生涯とその業績について、一般の方対象の講座は久しぶりで、専門的に研究している大学教授や関係者による顕彰講座は初めてである。以前に旧宅で行われた洞津谷川塾(全3回)を機に、我々の「谷川士清の会」が発足したと聞いているが、出張講座など啓発部会に比べて、我々の研究の方はあまり進んでいない。この機会に本当の士清の業績について正しく理解した上で、活動を進めていくことが出来そうだと第一回目の高倉先生のお話で確信した。「日本書紀通證」第一巻付録「和語通音」と『和訓栞』についての価値を認識したが、『日本書紀通證』の記述と垂加神道の関係については小学校では伝えにくいと思った。